



りんどう

第33号
平成30年11月発行
熊本県女性薬剤師会
<http://kumajyo.jimdo.com/>

題字:水民婦而子先生

今を生きる

熊本県女性薬剤師会副会長 清藤克代

晩秋の候、皆様にはいかがお過ごしでしょうか？今年の夏は猛暑、大雨、台風、と自然災害が重なり体調を崩された方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

現在熊本県女性薬剤師会では永吉会長のもと、スキルアップと新しい知識取得ができる通信教育講座を中心とした研修会と来年の参議院議員選挙に自民党公認をうけ比例代表に立候補された「本田あきこさん」の応援活動をしておこなっています。熊本出身の女性薬剤師「本田あきこさん」へのご支援よろしくお願いたします。

地域包括ケアシステム」の構築が進むなか患者さんや地域住民の方々のニーズに寄り添い対応出来る薬剤師としての資質が大切になってきています。私たち女性薬剤師はそのたおやかな感性をもってこの変革の時を前進していけると思っています。

私事で恐縮ですが、昨年から今年にかけて叔母、義理の妹、母、実妹の4人の大切な命を失いました。その喪失感から精神的にとってもつらい日々を送っていましたが、私に残されたこの命を大切に、生きていかなければ生かされている意味がない。先立った愛しい人たちの為にも今あるこの命を大切に生きていこうという心境になりました。「常居其全（常に其の全きに居る）」一日一日を薬剤師として、人として私なりに歩んで行きたいと思っております。

熊本県薬剤師連盟 本田あきこさんを励ます会

日時:平成30年11月24日(土)19:00~20:30

場所:くまもと県民交流会館パレアホール

みんなで参加して本田さんを応援しましょう。

第51回日本薬剤師会学術大会

平成30年9月23・24日 金沢で開催されました。



「人として、薬剤師として」をテーマに、4つの人間の本質的な苦しみである「生」「老」「病」「死」をカテゴリーに分科会等が行われました。だんだん身近になりつつある「死」では、尊厳死のこと、事前指定書のこと等考えさせられる事が多々あり、薬剤師としての研修のみならず自分自身を見つめる機会になりました。大変有意義な時間でした。(工藤)



研修会を開催しました

参加者による報告を熊本県女性薬剤師会ホームページに掲載しています

- 日時:平成30年7月22日(日)
場所:熊本大学薬学部総合研究棟2F多目的ホール
- 講演①「低用量ピルとホルモン補充療法」
フォーシーズンズレディースクリニック院長 田畑 愛先生
- 講演②「統合失調症の薬物療法と心理教育」
八代更生病院 副院長 安川節子先生
- 情報提供「新規強オピオイド治療薬『ナルサス徐放錠』『ナルラピド即放錠』について」
第一三共株式会社 医療情報担当者 岡久 亮氏
- 講演③「食道がんに対する診断・治療の最近の進歩」
熊本大学医学部附属病院 消化器外科教授 馬場秀夫先生



バザーを開催しました ご協力ありがとうございました

熊本大学薬学部「薬草パーク」に寄付させていただきます



稲穂のころ

永吉ハルカ

青田には白鷺が飛び交いタニシを食べている様子がみられ、やがて稲穂を付けたと思っていたら、あっという間に稲刈りも済んでしまっている。

レイチェルカーソンの「沈黙の春」では除草剤・農薬で鳥も虫も絶滅してしまう世界が描かれています。そのようなことにはならず本当に良かったと思います。通勤電車から見える田圃にはほんの数か所、稲穂を掛け干ししてあり、その光景を見て、子どもの頃、田圃は遊び場で、「掛けてある稲の下にもぐっていたなあ」と、あのぬくもりを思い出しました。

小学校では、この時期の今週の目標は「一、廊下を走らない」「二、稲穂をすごかない」の二つでした。小学生には頭を垂れた稲穂は手を出すにはちょうど良い高さでした。大切に実った稲を遊びですごかされては学校に言いづらくもなるだろうと思います。すごいて口に入れると口の中はイガイガするものの、まだ実になっていないことは乳色の汁でわかりました、もう暫く経つときちんと実になりカリカリとおいしく味わえます。学校も稲刈り時期は子どもの手伝いも必要なので半日授業でした。ミレーの晩鐘の様に、「落穂ひろい」をして学校へ持っていくと、給食用ミルク缶の数本分になり、その代金が学校図書代になると聞いていました。戦後の団塊の世代育ちの私達は児童数も多く、教室の最後列は通路がないくらい窮屈な教室ではあったものの、あの頃、田畑を走り回ったお蔭で骨密度が高いのではないかと勝手に思い込んでいます。

平成30年度熊本県男女共同参画協議会研修交流会

平成30年10月7日「女性の社会参画とDV問題」

- ①講演 「DV問題について」 熊本県子ども家庭福祉課 有田 知樹氏
- ②グループワーク ③発表

DVといえば身体的暴力と思いがちだが、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力など多彩であり、女性の約3人に1人が被害者であり、そのうち7人に1人が何度も繰り返されまた命の危険を感じているという。その本質には「力による支配」があるが被害者加害者ともDVであると認識していない場合が多いという。お互いが気持ちよく暮らしていくために、DVをなくすにはどうすればよいかという、「DV未然防止教育」が大切、また自ら防止するために早めの相談、支援を求めることも重要である。

相談窓口：熊本県女性相談センター、熊本市DV相談専用電話、警察安全相談室、合志市女性・子ども支援課など（西）



熊本大学薬学部 薬草パーク観察会

日時：平成31年 3月 31日（土） 13:00～16:00

参加費・申し込み不要

場所：熊本大学薬学部総合研究棟 2F 多目的ホール

薬用植物メモ

サフラン

学名 アヤメ科 (Iridaceae) *Crocus sativus* L.

生薬名 サフラン局 (番紅花、蔵紅花ともいう) 一花柱

成分 色素 (crocin)、苦味配糖体 (picrocrocin)

薬用 鎮静、鎮痛、通経などの作用があり、生理不順、生理痛、胸苦しさなどに用いる。妊婦には用いない方がよい。

その他 ヨーロッパ南部や小アジア原産の多年草。結実せず、分球で増やす。

婦人科系の症状によく効くが、採集の手間と収率の悪さから最も高価な植物性生薬として知られる。特有の芳香があり、また鮮やかな黄色を呈するのでパエリアやサフランライスなどに用いる。日本では大分県の竹田市でほとんどが栽培されている。 熊本大学薬学部薬用資源エコフロンティアセンター 渡邊 将人



第16回日本女性薬剤師会 全国移動セミナーin新潟

2018年11月4日（日）『フレイルは多職種で防ぐ』

～摂食・嚥下障害と低栄養を薬剤師の視点から考える～

午前中は多職種によるシンポジウム「摂食・嚥下障害と低栄養へのアプローチ」が医師、歯科医師、栄養士、薬剤師の先生方で行われました。午後からは現場で活かせる商品の紹介とグループワークでの症例検討がありました。

前日の交流会では本田あきこさんのビデオメッセージも流れました。

熊本から参加した私たち3人はその前に各テーブルを回り、本田さんへの支援をお願いしました。温かい言葉をいただき、とても心強かったです。

来年は、茨城県の水戸プラザホテルで10月26日（土）交流会、27日（日）セミナーが開催されます。皆様奮ってご参加ください。（杉浦）

